

平成29年度第3回北杜市図書館協議会会議録

- (1) 会議名：平成29年度第3回北杜市図書館協議会
- (2) 開催日時：平成29年12月1日（金）午後1時30分～午後3時00分
- (3) 開催場所：北杜市金田一春彦記念図書館 SVホール
- (4) 出席者： 協議委員 柴山 裕子／山中 長壽／手塚 正子／堀内 直美／
須田 由美子／中山 洋美／小澤 志穂子
教育委員会 井出部長
事務局 坂本館長／深澤 寛美・小野 まどか・
相吉 悠（総務担当）／進藤 由美子（ながさか図書館）／
高野 裕子（金田一春彦記念図書館）
- (5) 議題： (1) 平成30年度新規事業について
(2) その他

報告： (1) 新聞・雑誌アンケート並びに読書通帳利用アンケートの結果について
(2) 各図書館の近況報告について
(3) その他
- (6) 公開・非公開の別：公開
- (7) 該当なし
- (8) 傍聴人の数：0人
- (9) 審議内容

議 題

- (1) 平成30年度新規事業について

*事務局より新規事業について説明

- ・高根生涯学習センター屋根雨漏改修工事

たかね図書館が入っている高根生涯学習センターでは平成27年の大雪以降雨漏りが発生している。照明の配線が設置されている場所や利用者の頭上などでも発生しているため、図書資料等の保存の観点からも、早急に改修工事が必要である。今年度の金田一図書館と同規模の改修を要求したが、公共施設の統廃合等に係る個別計画が未策定の段階で、財源もなく、多額の費用を投入する事業の実施は困難であるとの財政課の判断により、一部改修での対応となる。

・金田一春彦記念図書館の電話機購入

金田一図書館の単独回線 38-1211 は外線及びフレンドパーク内の内線で使用しているが、耐用年数をはるかに経過しており、児童館の電話には不具合が生じている。全国的に周知されている金田一図書館の電話番号を変えずに電話機を新たに購入する。

・企画事業

金田一真澄名誉館長が、来年度、長野県立大学学長に就任するに当たり、少なくとも来年度は北杜市図書館事業「土曜ことば楽」への関与が厳しい状況となるため、講師報酬 60 万円を企画事業費に移行し、真澄氏の姉弟・田中美奈子氏や金田一秀穂氏を講師に、「ことば楽講座」として継続を図る。人件費である講師報酬はシーリング対象外であったが、企画事業費は年間 5% のシーリングがかかり 57 万円の事業費となる。真澄氏が北杜市の図書館事業に復帰できるまでの措置とする。

会 長：高根生涯学習センターは、たかね図書館と浅川伯教・巧兄弟資料館が入る施設である。先日、資料館の運営協議会に図書館協議会長として出席した際に、屋根の補修工事が図書館予算で行われるとの説明があった。複合施設なので管轄部署で折半ではないかとも思うが、建物自体の管理は図書館のため図書館の経費になるとのことであった。施設の修理費等については、たかね図書館と金田一春彦記念図書館以外は、図書館が入る複合施設の管轄部署の負担となることを、館長からも説明をうけた。このような事情を委員も承知しておいてほしい。

委 員：計上金額 1,048 千円で雨漏りが完全に直るのか。

事務局：今年度実施した金田一春彦記念図書館の屋根は特殊構造のため、長期間足場を組み、実際の風雨の状況で雨漏りの場所や原因を探りながら修理を行った。たかね図書館も同様の工事を想定していたが、経費が多額になるため、たかね図書館の建築に関わり建物をよく知る業者に入ってもらい、現在雨漏りしている部分のみの修理費の目安として出された金額である。

委 員：金田一春彦記念図書館の電話機の交換について、金田一図書館の電話は 38-1211 のみか。

事務局：この番号は、金田一図書館の単独回線で児童館と中央図書館も使用しているが、もう 1 本市の回線も引いており、市施設内の外線にかけられる。

委 員：金田一名誉館長の「土曜ことば楽」報酬が一般の事業費へ移行するという

が、年間4回の開催は変わらないか。

事務局：金田一図書館内のことばの資料館での開催は4回だが、それ以外に外へ出て開催したこともある。

委員：来年度は、ことば楽講座4回のうち1回は音楽編として開催するということでよいか。

事務局：予算要求をする際には具体的な内容を示す必要があるため、現段階での事業案である。金田一春彦先生は、ご自分で作曲するなど、音楽を非常に愛されていたため、先生にゆかりの楽曲を取り入れた企画があったほうがよいとの考えからである。

委員：音楽編の開催場所については考えているのか。

事務局：ホールのような大きなところではなく、こじんまりしたところで、とは考えているが、具体的にここというのはまだ決めていない。

報告

(1) 新聞・雑誌アンケート及び読書通帳利用アンケートの結果について

*29年9月中旬から10月末まで実施。この結果を、来年度の新聞雑誌購読並びに読書通帳導入の検討材料の一つとする。

① 新聞・雑誌アンケートの結果について

- ・アンケート項目は、「図書館でよく利用している雑誌」、「新たに置いてほしい雑誌」、「興味のあるジャンル」、「普段家などで読んでいる新聞」、「図書館においてほしい新聞」「よく利用する図書館とその理由」などである。
- ・「図書館でよく利用する雑誌」・「新たに置いてほしい雑誌」については、集計結果一覧表にあるように、内容・タイトルは非常に多岐にわたっている。
- ・「興味のあるジャンル」は、8館全体で料理が最も多く、次いで園芸、歴史と続く。それ以降は、健康、自然科学、芸術、手芸という順番であった。
- ・「普段読んでいる新聞」については、地元紙である山梨日日新聞が最も多く、その次に朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、日本経済新聞と続く。「図書館においてほしい新聞」については、山日新聞、朝日新聞、日経新聞、読売新聞、毎日新聞が上位となっている。これらの現在の設置館は、山日新聞8館、朝日新聞7館、日経新聞5館、読売新聞3館、毎日新聞2館であり、設置館数はこのアンケート調査の結果と合っている。
- ・「よく利用する図書館は」という質問については、当然ながら、居住地の図書館を利用している人が多く、次いで隣の町の図書館利用が多い。理由で一番多かったのが、「自宅から近い」、次いで「通勤途中で寄れる」「買い物や子どもの送迎途中で寄れる」という回答が多かった。また、「資料が充実している」「新し

い本が多い」等、蔵書を理由としているほか、「使いやすい」「環境がよい」「駐車場やトイレが広い」等、施設に関わる理由も挙げられた。「職員の対応がよい、親切」「書架を熟知している」といった、職員の努力が評価された回答も多くあった。

委員：アンケート回答者数が非常に少ない館があるが、何か理由があるか。

事務局：アンケートの配布については各館に任せているが、多忙な状況下で積極的にアンケートを依頼できなかったかと思われる。

委員：アンケート期間、開始日は同じであったか。

事務局：同じである。

会長：委員の中でこのアンケート調査に回答した人はいるか。(会長含め2人)
手渡しで依頼していた館もあるが、拒否されればそれ以上追えないのは致し方ない。

委員：雑誌スポンサー制度についてはどのように進んでいるのか。

事務局：個人から2件、団体から1件申し込みがあった。導入館は、明野、すたま、むかわで1件ずつである。アクションプランの今年度の目標は、「周知活動」であったが、既に申し込みをいただいているという状況である。

部長：各館に設置してある新聞及び雑誌の数はいくつか。

事務局：新聞は、明野2紙、すたま5紙、たかね5紙、ながさか5紙、金田一8紙、小淵沢4紙、はくしゅう3紙、むかわ2紙である。雑誌は、明野31誌(購入16、寄贈15)、すたま46誌(購入34、寄贈12)、たかね41誌(購入32、寄贈9)、ながさか39誌(購入28、寄贈11)、金田一75誌(購入54、寄贈21)、小淵沢29誌(購入20、寄贈9)、はくしゅう32誌(購入24、寄贈8)、むかわ26誌(購入16、寄贈10)である。購入しているなかで、季刊、月刊、週刊により、金額は変わってくる。

委員：購入数の違いは、利用者数を反映させているのか。

事務局：合併前の各館の購読数が母体になっていると思われる。

委員：利用数がわかればよいと思ったが、回答数にばらつきがあるので単純比較はできないと思われる。

事務局：興味のあるジャンルも多岐にわたっているが、貸出数および図書館内での閲覧も含め、利用の様子を見ながら購読の参考としていく。

部長：寄贈雑誌についても多い少ないがあるが、出版社から8館にいただけるものではないのか。

事務局：寄贈雑誌については、フリーペーパーが多く、全館で所蔵する必要はないと判断したものもあり、ばらつきがある。

委員：「野鳥(野鳥協会)」、「自然保護(自然保護協会)」、「生活と自治(生活クラブ)」については、会員にしか送られない雑誌で、かつ偏りのない内容のもの

であるので、自分が購読後、図書館に寄贈している。寄贈した雑誌をどの館が所蔵しているか周知してほしい。

事務局：所蔵誌については、各館の一覧表を作成して公表している。寄贈雑誌数のばらつきについては、図書館を指定しての寄贈となるため致し方ない。また、書架が満杯で置けないケースもある。

委員：明野図書館は、以前は雑誌の購入数も多かったが徐々に減り、書架の整理も行ったことで、スペースが開いてきたため、自分が購読後の雑誌を置いてもらえると考えた。図書館によっては置くスペースがあるところもあるので、受け入れのPRをしてもよいと思う。

委員：新聞を増やすことは難しいのか。

事務局：予算額が決まっているので、新聞を増やせば雑誌を減らさざるを得ない。他市の状況を見てみると、拠点館により多くの新聞を置き集中して情報が得られる一方、分館に主要紙を数紙置くというやり方が主流であった。

委員：新聞販売店で誤配用に余分に持っていると思われる新聞を、午後や翌日に図書館に寄贈してもらうことができないか。

事務局：新聞店に確認してみる。

部長：アンケート結果を見ると、日経新聞を置いてほしいという希望が多いが、金田一図書館あるいは5紙購読している図書館にあれば、という感じがする。実際の購読状況はどうか。

事務局：すたま、たかね、ながさか、金田一、小淵沢に置いている。

委員：地域的なことを考えて、むかわかはくしゅうのいずれかに置いてほしい気がする。

部長：学校に交付税措置をするので、学校にもできるだけ新聞を設置するよう国の方針が示され、新聞業界からも設置の要請が出された。調査をしたところ、小中学校とも2紙平均置いており、国の目標（小学校1紙、中学校2紙、高校5紙）はおおむね達成しているが、新しい情報を得るための手段として、活字離れが指摘されている。

事務局：学校では、大手新聞社の小中学校向けの新聞や山日新聞は置いている、との情報はある。

委員：調査結果を参考にして選定していくとのことだが、各館の予算額に差がある。購読する雑誌や新聞は変わっても、金額が増えることはないのか。

事務局：今年度の予算がベースになるので、各館予算額のばらつきはなくなる。決まった予算の中で調整して購読するので、増額にはならない。

委員：アンケート結果はどの程度反映するのか

事務局：アンケートに回答していない利用者の意向もくみ取りながら選定するので非常に難しいところではある。できるだけ偏った選定にならないように留意

する。また、各館ごとではなく、市全体としてどの館でどういう雑誌を持っているべきかを検討しながら選定していく。

委員：新聞・雑誌や図書の予算は5%のシーリング対象経費なので、毎年減額されていく。

事務局：紙の値上がりの影響で、既に日経新聞は10月から値上がりしており、他の新聞、書籍も来年度からの値上げが予想され、さらに厳しい状況が懸念される。

委員：毎年、協議会で言うことであるが、本あつての図書館であり、新刊が入らなければ、図書館離れがますます加速する恐れがあるため、予算についてはその点をぜひ考慮してほしい。合併時に比べると、図書予算は大幅に減少している。

② 読書通帳利用アンケートの結果について

・回答結果 利用したい：95人、利用したくない：173人、すでに利用している：17人

会長：読書通帳の利用アンケートについては、利用を希望しないという回答が多かったが、どのように考えるか。

委員：アンケート用紙に、読書通帳はどのようなものかという説明があったか。

事務局：質問文のあとに、簡単に説明文を記載した。

委員：市が提供するという説明はしなかったか。

委員：利用調査なので、おそらく回答者は市が提供するものととらえていると思う。

委員：実物を見ないとイメージが掴めなかったのではないか。

委員：何人か知人にも尋ねてみたが、最初は書くかもしれないが、面倒なので続かない、などという回答が多かった。銀行の通帳のように機械に通せば印字されるタイプのものであれば利用者もあると思うが、自分で記入しなければならないとなるとどうであるか。

事務局：読んだ本の価格を印字することで、図書館で借りた本が実際に購入すればいくらになるか確認できるタイプの通帳もある。

委員：そういったものであれば、興味も湧き、効果的であるが、経費も掛かるため、現状市で提供できるのは、自分で記入するタイプのものである。

会長：こういったことを踏まえて、導入の有無については図書館で結論を出すということではよろしいか。

委員一同：同意。

(2) 各図書館の近況報告について

*各図書館で行った事業、今後予定している事業について資料をもとに説明。

委員：金田一図書館の杜のでまえ図書館では、図書館職員が出向いて実施しているのか。

図書館職員：臨時職員とアルバイトで行っている。

委員：このようなケースでこそ、ボランティアを活用するのが望ましいと考える。

事務局：職員の負担軽減の観点からも、今後はボランティアの方たちの御協力をいただきながら事業を実施していくよう努める。

委員：読書会のテーマ本は、どのように選定しているのか。

図書館職員：参加者に、次回のテーマ本を決めてもらっている。決まらない場合は、図書館側が決めるときもある。

以上